

日比谷アメニスグループが提供する環境価値

私たちが日比谷アメニスグループでは、持続可能な社会を実現するためにさまざまな活動を行っています。ここでは、活動が社会に提供している環境価値を植木の植樹本数・緑地の管理面積・使用電力の再エネ率・紙の使用削減量として数値的に示す各種データをご紹介します。

高木の植樹本数 6,335 本

1 位：ソノバが1575本、2 位：ソノバが349本、3 位：キョウキが276本
4 位：イロハが257本、5 位：ウツクスが211本

中低木の植樹本数 363,574 本

日比谷アメニスグループでは、緑地が121万人の市民を擁しています。その緑地を大切にすることで、都市環境の改善につながります。



2021年4月～2021年12月の間で、緑地・中低木管理が27種類の植樹と植樹の本数を増加しています。増加したのは植樹の本数、樹高と中低木の植樹本数に注力しています。



2021年4月～2021年12月の間で、緑地・中低木管理が27種類の植樹と植樹の本数を増加しています。

緑地の管理面積 968 ha

東京ドーム 207 個分の面積にあたります。

緑地の管理を通じて市民の暮らしを豊かにすることで、オフィスビルやマンション等のように環境をとり、公園の緑地環境を向上させています。これらを通じて緑地が市民生活環境への貢献も果たしています。

使用電力の再エネ率

2021年 2月時点 1% → 24% (2021年 5月時点)

再生可能エネルギー電力への切り替えにより削減できCO2排出量の削減量 612t-CO2/年

再生可能エネルギー電力への切り替えにより削減できCO2排出量の削減量 612t-CO2/年。2021年5月には東京ドーム、両国競技場、両国スタジアムで切り替えを実施し、再エネ率が高まっています。両国スタジアムでは東京ドームよりも削減率が高まっています。2023年までに両国スタジアムの切り替えも予定しています。



2021年～2021年12月の間で、2021年～2021年12月の間で、再生可能エネルギー電力への切り替え率を27種類の施設で再エネ率を24%に引き上げました。東京ドームは再生可能エネルギー電力への切り替え率を24%に引き上げました。



2021年4月～2021年12月の間で、紙の使用削減量を削減しています。2021年～2021年12月の間で、紙の使用削減量を削減しています。

前年度からの紙の使用削減量 42,110 枚

今年度の紙の使用量 1,375,443 枚（前年度から3%削減）

オフィスにおけるペーパーレスの取り組みにより、紙の使用量を削減することができ、紙の使用量を削減しています。また、紙の使用量を削減しています。また、紙の使用量を削減しています。
